

東京湾大華火祭

▲ 詳細はこちらのHPから

ごあいさつ



実行委員会会長 福原 有一

花火は一瞬です。しかし、その光景は人の心に長く残ります。東京湾の夜空に大輪の華が咲き、多くの皆さまと同じ空を見上げる――。この特別な時間を、中央区・港区の区制（区政）施行 80 周年という記念すべき節目に迎えられることを、実行委員会を代表して心より嬉しく思います。

江戸開府以来、中央区と港区は、日本の文化、商業、情報の中心として発展を続けてきました。江戸の伝統や街の記憶を大切にしながら、世界へ開かれた都市として常に新しい価値を生み出してきた二つの街。その東京湾を舞台に開催する本華火祭には、これまでの歩みへの感謝と、これからの未来への希望を込めています。

東京湾を彩る華火が、世代や国籍を越えて人と人をつなぎ、この街に暮らす方、働く方、訪れる方、すべての方の心に、忘れられない東京の思い出を刻んでくれることを願っております。また、この華火祭が両区の魅力を国内外へ伝え、地域のにぎわいと新たな交流を生み出す機会となれば幸いです。

開催にあたり、多大なるご理解とご協力を賜りました地域の皆さま、関係各位に心より感謝申し上げます。

今宵の華火が、皆さまの明日を明るく照らす光となりますように。

80 年の歴史を祝い、次の 100 年へ。

福原 有一



中央区長 山本 泰人

東京湾の夜空に大輪の華が帰ってまいりました！ 11 年ぶりの開催を待ち望んでおられた多くの皆さまと、この感動を分かち合えることは大きな喜びであります。今回の華火祭は中央区と港区の区制（区政）施行 80 周年を記念する特別な祝典として開催いたします。豪華物置に咲き誇る大輪の華々は、私たちが歩んできた 80 年の歩みを祝すとともに、両区の絆をより一層深め、輝かしく未来を照らす希望の光であります。この特別な一夜が、皆さまの心に新たな感動として深く刻まれることを願ってやみません。さあ皆さま！ 11 年の時を超えて再び響きわたる、東京湾の新たな鼓動を全身で受け止めましょう。

本華火祭の実施にあたり多大なご支援・ご協力を賜りました区民の皆さま、町会・自治会の皆さまをはじめ、東京都、江東区、警視庁、消防庁、海上保安庁、港湾関係団体、協賛企業の皆さまなど関係各位に心から御礼申し上げます、ご挨拶といたします。

山本 泰人

■中央区ミニ年表

昭和 22 年 3 月	中央区誕生
昭和 30 年 3 月	晴海埠頭開港
昭和 44 年 12 月	区役所新庁舎（現本庁舎）開庁
昭和 63 年 8 月	第 1 回東京湾大華火祭開催
平成 2 年 8 月	第 1 回大江戸まつり盆おどり大会開催
平成 3 年 7 月	山形県東根市、オーストラリア・サザラン市と姉妹都市提携
平成 9 年 4 月	昭和 29 年以來減少が続いていた本区人口が 45 年ぶり増加傾向に転じた。
平成 18 年 4 月	定住人口が 31 年ぶりに 10 万人を達成
令和 3 年 7 月	東京 2020 オリンピック競技大会選手村開村。
令和 5 年 1 月	定住人口が 70 年ぶりに最大を更新（17 万 4,074 人）。



港区長 清家 愛

本日は、東京湾大華火祭にご来場いただき、誠にありがとうございます。港区と中央区の区政（区制）80 周年を記念し、多くの皆さまに親しまれてきた東京湾大華火祭を 11 年ぶりに開催できますことを、大変嬉しく思います。区民の皆さまをはじめ、多くの方々のご支援とご協力により、本日を迎えることができましたことに、心より感謝申し上げます。

東京港は、港区の発展を支えてきた大切な地域資源であり、人や文化、産業が交わる魅力あふれる舞台です。この東京湾大華火祭が、東京港の魅力や臨海部のにぎわいを一層高めるとともに、港区と中央区が歩んできた 80 年の歴史を振り返り、その歩みを未来へつなぐ機会となることを願っております。

夜空を彩る花火が、世代を超えて心に残る思い出となり、人と人とのつながりや地域への愛着を深める契機となれば幸いです。どうぞ安全にご留意いただき、東京港ならではの美しい景観と迫力ある花火を心ゆくまでお楽しみください。

清家 愛

■港区ミニ年表

昭和 22 年 3 月	港区誕生
昭和 33 年 12 月	東京タワー完成
昭和 57 年 10 月	第 1 回みなと区民まつり開催
昭和 62 年 3 月	港区役所新庁舎開庁
平成 5 年 8 月	レインボーブリッジ開通
平成 18 年 4 月	総合支所制度開始
平成 21 年 5 月	人口 20 万人突破
平成 29 年 3 月	昭和 38 年以來 54 年ぶりに総人口 25 万人を突破。
平成 30 年 12 月	MINATO シティハーフマラソン 2018 開催
令和 7 年 3 月	パリ市 15 区と国際友好都市提携を締結



花火師と観客の思いを乗せ、
1 万 2000 発の花火が夜空に咲く

花火師の仕事場

11 年の時を経て、再び東京港で大輪の花を咲かせる「花火師」たち。
打ち上げ現場を束ねる細谷さんに、花火師の裏側や「東京湾大華火祭」への思いを伺いました。

細谷圭二さん

（株）ホソヤエンタープライズ 代表取締役社長

1963 年生まれ。大学在学中、花火の打ち上げを経験したことで花火の世界に魅了され、家業のホソヤエンタープライズに入社。現在は日本煙火芸術協会の理事を務め、全国各地の花火大会に携わる。

観客を魅了する花火は、 10 年の修業の上に

一花火師とはどのようなお仕事なのでしょう。

花火の製造から打ち上げまでを行うのが私たちの仕事です。かつては全ての工程を一貫して行っていました。近年は製造のみを行う人や打ち上げのみを行う人など、分業が進んでいます。製造は、花火玉の表面にクラフト紙を貼る「玉貼り」や、花火の中に入れる星（火薬の粒）を作る「星掛け」など、さまざまな作業を手分けして行います。中でも、花火の玉皮と呼ばれる容器の中に火薬（星・割薬）を詰める「玉込め」の工程は危険が伴うため、経験豊富な職人が担当します。打ち上げを行う「打ち上げ従事者」には、公益社団法人 日本煙火協会が発行する“従事者手帳”が交付されます。安全管理のため、年に 1 回 1 回講習を受ける必要があります。――一人前の花火師になるためには、どのくらい修業が必要なのでしょう。

一般的には「玉貼り 3 年、星掛け 5 年」と言われています。これらの基礎的な工程を経験して初めて他の作業を教わるので、一人前になるまでには 10 年ほどかかります。私の場合は、父から花火の打ち上げ方法を教わったのがこの世界に入ったきっかけですが、最初から打ち上げに携わるというのはかなり珍しいケースですね（笑）。――ちなみに花火師の繁忙期はいつ頃なのでしょう。

梅雨明けの 7 月下旬から始まりですね。夏の花火大会はもちろん、秋は学園祭や地域のお祭り、10 月以降も各地で花火大会があり、年末はクリスマスやカウントダウンイベントと続きます。よく「冬場は何をしているのか」と聞かれますが、乾燥する冬場は打ち上げがない分、翌シーズンに向けた花火の製造をしています。

見どころの花火 その一

◆ 芯菊（しんぎく）

大きな菊の内側に小さな菊（芯）が開きます。全体で三重になるのが「八重芯」。六重になる「五重芯」は製造技術の最高峰で、名人の中でも限られた人しか作ることができません。



見どころの花火 その二

◆ 千輪菊（せんりんぎく）

大きな花火玉の中に、小さな花火玉（小割玉（こわりたま））が詰めてあり、小さな菊が同時にたくさん開きます。



花火師によって、 異なる表情を見せる花火

一花火玉はどのように作られているのでしょうか。

例えば、「八重芯」という三重に輪が広がる花火の場合、まずお椀状の容器に「星」を並べ、その上に和紙を重ねて玉を割るための割火薬を詰めます。この工程を 3 回行い、玉貼りと乾燥作業を繰り返して完成しますが、玉そのものだけでなく、中に詰める星や割火薬も乾燥が必要なので、尺五寸玉くらい大きいものだと製造に約 2 カ月かかります。時間がゆかり技術も必要ですが、玉が大きくなるほど芯の数を増やすことができ、より多彩な仕掛けを施すことができます。

――実際に花火は何種類くらいあるのでしょうか。

大きく分けると 3 種類です。まず、最も一般的な丸く開く花火は「割物（わりもの）」と言います。あとは、小さな花が開く「小割物（こわりもの）」、上空で薬玉状に開いて柳状の花火などが出てくる「ホカ物」があります。ただ、毎年新作花火を発表する協議会が開催されているので、細かく見ていくと種類は無限にあると言えます。――花火師さんによって特徴なども異なるのでしょうか。

色は特に違いが出ますね。例えば紅色ひとつをとっても、淡い赤を出すところもあれば、イタリアンレッドのような鮮やかな赤のところもあります。各社が独自に火薬（炎色剤）の配合比率を調整しているので、12 色ある基本色も、何社も集まれば 24 色、36 色と表現の幅が広がります。各社で得意とする色が異なるので、複数社で行う花火大会は色のバリエーションが豊富で面白いですよ。ちなみに当社は緑色が得意です。



全国から珠玉の花火を持ち寄り、 東京港で咲かせる

一東京湾大華火祭ではどのような花火が上がるのでしょうか。

目玉は、全国の名人と呼ばれる花火師 28 名で構成される「日本煙火芸術協会」の花火です。本協会は、協議会で優秀な成績を収めた花火師だけが加入できる、まさに名人たちの集まり。秋田の大典や茨城の土浦など、全国の主要な花火大会を彩ってきた名人たちの花火が、東京に一堂に集結します。冠や芯菊、千輪菊などなじみの花火から新作花火まで、さまざまな種類を用意していますよ。

――当日のプログラムで大切にしているポイントはありますか？

一番大切にしているのは「ドラマ」を生み出すことです。今回は、中央区と港区が区制（区政）80 周年を迎えられるので、オープニングから華やかに「お祝いの花」を打ち上げたり、夜空に「80」の文字を浮かび上がらせたりと、記念にふさわしい派手な構成になっています。東京港という最高のロケーションから、次々に繰り広げられるドラマをご期待ください。

――楽しみにしております。また、今回は全て海上から打ち上げると伺いました。

はい。当日は 4 隻の台船に約 100 人の花火師が乗り込んで、早朝から花火の打ち上げの準備を行います。夕方には、花火の点火担当者及び安全確認担当者のみが各台船に残り、17 時 30 分から海上で 1 万 2000 発の花火を打ち上げます。以前は台船 3 隻（海上）と晴海ふ頭公園（陸上）の両方から打ち上げを行っていたので、全て海上からの打ち上げは私たちとしても初めての試みです。水面に花火が反射して 2 倍の数に、大都会の高層ビルに反射して 3 倍の数に感じたりと、迫力満点の大会になると思います。

見どころの花火 その三

◆ 冠（かむろ）

大きく開いた光がすぐに消えずに、柳のように流れて落ちていくもの。「冠菊（かむろぎく）」「しだれ柳」とも呼ばれます。



記憶に残る花火大会を 届けることが、花火師の使命

――今回再開すると知らせを受けた時、どのように感じられましたか。

11 年再開を信じて待っていたので素直にうれしかったですし、ようやくという思いもありました。今回は晴海、豊海、豊洲、有明、台場、港エリアと花火を囲むように観覧エリアがあり、どこから見ても圧巻だと思うので、私たちも力が入ります。――花火師の皆さんにとって「東京湾大華火祭」とはどんな場所ですか？

「聖地」と言える場所ですね。なので、開催当初から続いていることですが、当日は各台船から海上へ塩と御神酒をまき、安全祈願をしてから打ち上げに入っています。また、東京湾大華火祭は全国各地の花火職人にとっても憧れの舞台です。地元の花火大会で打ち上げを控えていても、知らせを聞くと「東京で一花咲かせてやるぞ！」という感じで、皆さん東京湾大華火祭に駆け付けて手伝ってくれますから（笑）

――最後に、11 年間待ち望んでいた皆さんにメッセージをお願いします。

ついに「復活」を迎えるので、休止前以上に力が入っています。私たちの使命は、東京湾大華火祭がどれだけ素晴らしいものかを皆さんに届けることです。「また来年も見たい」「この大会を未来に残していきたい」と思っていただけよう、日本中の名人たちがこの花火大会のためだけに作った珠玉の花火を第五部の芸術玉のパートで打ち上げます。第一部から最後の第六部まで見どころ満載ですので、最後まで楽しんでいただけたらうれしいです。



見どころの花火 その四

◆ 型物（かたもの）

花火玉の中に入れる星（火薬の玉）の配置を工夫して、ニコちゃんマークやハート型、アニメのキャラクターなどを描き出します。



東京湾大華火祭 花火師の一日

当日、花火師たちは何をしているのでしょうか？
今までの東京湾大華火祭の写真を使って「花火師の一日」をご紹介します。

5:00

花火会社のトラックが埠頭に集合。この日のために長い時間をかけて花火玉を作り、全ての打ち上げ筒や機材、防火用具など一式を積んでやってきました。



6:00

一日のスケジュールや注意点を確認後、早速作業を開始。台船業者と花火師が共同して、必要なものを運搬用の台船に積み込み、海上の打ち上げ場所へ向かいます。



7:00

打ち上げ用の大型台船に到着後は、1 隻の台船に 30～40 人のスタッフが乗り、点火小屋や総計 1 万本にもなる筒の設置作業を進めます。長時間にわたる作業はまさに過酷。



15:00

筒の設置が終わったら、行政による検査も行われます。さらに全ての筒に点火用の電気信号が届いているか「導通」を確認し、ようやく準備完了。筒がずらっと並ぶ様は壮観！



17:30

打ち上げ全体をプロデュースする細谷さんの合図で、花火祭がついにスタート！ 花火師は点火チームとして 7 名程度が台船上の点火小屋に残ります。

東京湾大華火祭 本番！

22:00

打ち上げ終了後は、着火しなかった玉がないかを注意深く確認。そして撤収作業です。運搬用の台船に荷物を載せて埠頭に戻り、トラックに移して花火工場への帰路に着くのは夜 10 時を回る頃。全てが終わって花火師さんが家に帰れるのはまだ遅くなります。長い長い一日、本当にお疲れ様でした！